

つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶっちゃん」

何度読み返したか 分からないほど…



推薦者
金子 香理さん
(下横野)

高校生の時、たまたま本屋さんで手に取った絵本。何度も生まれ変わったねこのお話『100万回生きたねこ』は、絵本でありながら「大切なこと」について考えさせられる深いお話です。

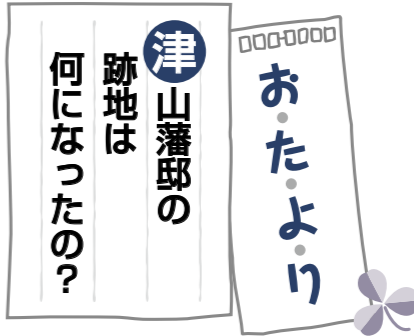
王様、船乗り、手品使い、どろぼう、おばあさん、女の子など100万人の人がそのねこをかわいがり、そのねこが死んだ時泣きました。でも、ねこは誰も好きではありませんでした。ある時、のらねこになったねこは、白いねこに出会い、自分よりも大切な家族ができます。そして、愛する白いねこが死んだ

時、泣き続けたねこはそのまま動かなくなり、二度と生まれ変わることはありませんでした。大きな口を開けて泣き続けるねこの姿に感動し、何度読んでも涙が出そうになります。誰かを愛せることは幸せなことだと教えてくれているようです。

絵も魅力的なこの作品は、子どもたちも大好き。小さなころから何度も読んで聞かせました。今では自分から本を開いています。子どもたちは、ねこが何度も生き返り、いろいろな飼い主が現れるという変化も楽しんでるようですね。



『100万回生きたねこ』
佐野 洋子 作・絵
(講談社)



津山藩邸の
跡地は
何になったの？

司馬遼太郎の『翹かか如く』に「川路の役所は内桜田の鍛冶橋にある。橋を渡ってすぐ右側がそれで、もとの津山藩邸であった。(中略)この屯営を東京警視庁とすべし」の記述があります。しかし、市の『博物館だより』には、津山藩邸は東京駅の敷地内になっ

ていて、書いてあります。司馬さんの説が正しいのであれば東京警視庁は津山藩邸

の跡地ということになり、面白い情報です。調べてみてください。(川崎・男性)

『翹かか如く』に出てくる津山藩邸は、現在の千代田区丸の内2丁目、当時の鍛冶橋門の辺りにあった津山藩の上屋敷のことだと思われま

この藩邸は、小説に書かれておるとおり、明治維新後の東京警視庁設置時に庁舎として使用されました。しかし、その後、警視庁舎は移転し、現在は千代田区霞が関2丁目にあるので、残念ながら現在の警視庁と津山藩邸跡には直接の関係はありません。

警視庁舎が移転した後、大正3年に東京駅が丸の内完成しました。津山藩邸の敷地は東京駅の敷地の一部として現在に至っています。



問い合わせ先 津山郷土博物館
館内 22・4567

きらめく津山人

最後まであきらめず、チャンスをつかめ

国士舘大学柔道部 副主将

石本 克泰さん(神戸出身)



10月9・10日、東京・日本武道館で行われた全日本学生体重別選手権大会男子66kg級において、見事初出場・初優勝の快挙を成し遂げた石本克泰さんに柔道に掛ける思いを伺いました。

優勝おめでとうございます。今回優勝できた勝因を教えてください。

ありがとうございます。昨年まで予選敗退が続いたので、悔しい思いをしてきました。しかし今回、4年生ながら初出場ということになりました。そのせいか、いつもより技も多く仕掛けた

ることができたことが勝因だと思います。また、決勝戦は1年生が相手だったので、なんとしても勝ちたいと思い、試合に臨みました。

柔道の魅力を教えてください。

父が道場を開いていて、3歳上の兄が先に入門していたので半ば成り行きで始めた柔道ですが、練習を重ねて技を覚えていくうちにだんだん楽しくなり、自分より実力が勝る相手に勝ちたいと思うようになりました。一生懸命努力して相手に勝つ時のうれしさは何物にも替えられない達成感があります。

どんな練習をしていますか？

今は大学に通っているのですが、大学の柔道部で練習を行っています。まず、朝はランニングを10kmこなし、午後からウエイトトレーニングや乱取り、打ち込み、寝技などの練習を行います。後輩やOBの皆さんが活躍している姿を見ると「自分も頑張ら



▲津山西中学校3年当時、全国中学生柔道大会で優勝した石本さん(平成15年)

選手権大会で上位に食い込み、全日本選抜柔道体重別選手権大会に出場することです。

わたしは柔道を通してあきらめないことの大切さを学びました。津山の道場でも日々、子どもたちが練習に励んでいると思います。地方で柔道をしていても全国で活躍できるチャンスは常にあります。地区大会や県大会で勝てなくても、あきらめないで続けていけば絶対にチャンスは来ます。頑張ってください。

今後の課題や目標、柔道を通して得たものは？

わたしの柔道はとにかく攻め続けることが持ち味です。しかし、ポイントを取ると攻めの勢いが落ちる悪い癖があるので、どんな時でもしっかりと攻め続ける、「有効」でもなんでも取れるようにならなくてはいけないと思っています。

目標は講道館杯全日本体重別

不屈の精神で「柔」の道を極めようとする石本さん。

なお一層の鍛練を積み、活躍の場を大きく広げられるよう期待してやみません。